

ダナン市との環境協力及び港湾・産業交流に関する覚書の締結について

川崎市とダナン市は、平成6年に川崎港及びダナン港との友好港提携を行い、平成19年には経済協力に関する覚書を締結し、以後、港湾分野、経済分野など様々な分野において交流を行ってきました。

こうした交流をもとに、両市は今後、更なる互恵的な関係を構築するため、緊密な連携及び協力を図ることを確認し、「日本国川崎市とベトナム社会主義共和国ダナン市との環境協力及び港湾・産業交流に関する覚書」を締結します。

1 日時 : 平成24年2月10日(金) 午後1時30分から午後1時50分

2 場所 : とどろきアリーナ 1階応接室(別添案内図参照)

3 出席者: 川崎市側 : 阿部市長、平岡上下水道管理者、菊地総務局長、
小泉経済労働局長、稲垣環境局長、水谷港湾局長
ダナン市側: ルオン・ミン・サム外務局長

4 調印内容

本覚書は、環境分野の協力及び港湾・産業分野の交流促進に関する次の事項について明記しています。

(1) 環境分野の協力

ア 上下水道事業、廃棄物処理等の環境分野における両市間の協力

イ 独立行政法人国際協力機構(JICA)が実施するダナン市の環境インフラの整備に向けた協力準備調査に対する支援等

(2) 港湾・産業分野の交流

人材交流、技術交流、情報交流などを推進し、相互の交流機会の創出に向けた取組の実施

5 調印署名

2月10日の川崎市国際環境技術展開催にあわせ、ダナン市からは、ヴァン・フー・チェン人民委員会委員長代理として、ルオン・ミン・サム外務局長が出席します。

当日は、阿部市長との表敬の際に、ヴァン・フー・チェン人民委員会委員長が署名された調印文書をルオン・ミン・サム外務局長に御持参いただき、阿部市長が調印文書に署名します。

ダナン市の環境インフラ整備に向けた J I C A

協力準備調査について

1 調査概要

ダナン市においては、急速な都市化、人口の急増等に伴い、河川・湾等の公共用水域の水質汚濁、廃棄物処分場の延命化が課題となっています。

本調査は、ダナン市における既設下水処理場の機能改善と新規下水処理場の整備、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進による廃棄物の減量と廃棄物処理施設などの環境インフラ整備事業について、J F E エンジニアリングをはじめとする企業体からの提案に基づき、事業化に向けた計画策定等の調査を実施するものです。

《 J I C A 協力準備調査》

協力準備調査とは、J I C A の協力案件の実施準備段階で「協力プログラム」の形成と個別案件の発掘・形成及び妥当性・有効性・効率性などの確認を行う調査
参考ホームページ http://www.jica.go.jp/press/2011/20120110_01.html

《企業体》 (株)エックス都市研究所／(株)日水コン／(株)イーツーエンジニアリング／
住友商事(株)／J F E エンジニアリング(株)／月島機械(株)

2 調査期間

平成24年3月～平成25年3月（予定）

3 川崎市の協力

川崎市は、これまでの市政運営の中で培ってきた下水道や廃棄物処理に関する経験や技術を活用し、本調査に対し下水道の運営管理に関する助言、廃棄物の適正処理に関する助言などを行い、ダナン市の環境改善に向けた協力を行います。

ベトナム・ダナン市について

ダナン市の概要

<基本概要>

ベトナム中部の中央直轄市であり、ベトナムの主要な港湾都市である。

場所： 中南沿海

総面積： 1,256km²

人口： 約 89 万人

人口密度： 599 人/km²



<特徴>

ベトナム中部最大の商業都市で、国際空港及び国際港を有し、ベトナム中部における経済・文化の中心地である。北のハノイからは764km、南のホーチミン市からは964kmの距離に位置する。南北ベトナムの国道（陸路）、海路、および航空路のほぼ中央という要所になっており、安定的な社会経済発展のために有利な地理的条件下にある。

古くから重要な貿易港として栄え、現在もティエンサ港とハン港から成っているダナン港を中心として、ミャンマー、タイ、ラオス、ベトナムをつなぐ「東西経済回廊」の起点として、重要な役割を担っている。

森、海、川が揃った自然豊かな都市でもあり、観光地としても名高い。現在は、リゾート開発やビーチ観光も積極的に進められている。

主な産業は、工業・建設分野や商業、輸送・通信などのサービス分野で、GDP成長率は2001年～2006年の平均で12.47%、2008年には11.04%と高い経済成長を続けており、ベトナムの次なる投資先として注目されている。